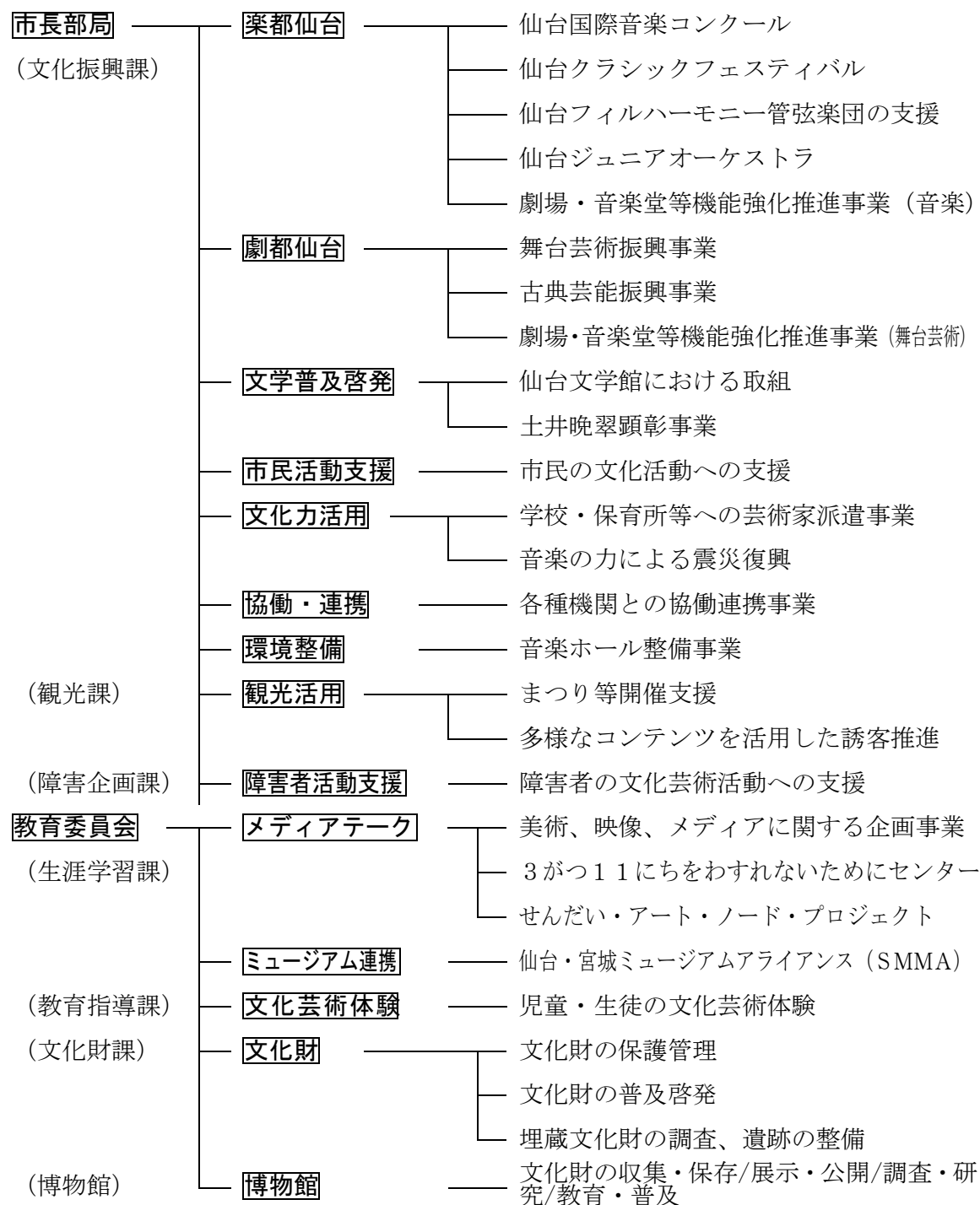


仙台市の文化芸術振興の取組について

1 現在の文化芸術振興の取組



※上記のほか、区文化センター、市民センター、その他の施設（ミュージアム等）でも各施設の特性に応じた事業を実施している。

【関連する分野】

青葉山エリアの魅力向上や「杜の都」の象徴である定禅寺通の活性化推進、震災の経験や教訓を継承する震災復興メモリアル事業など。

2. 現在の文化芸術振興の取組（詳細）

（文化振興課）

仙台国際音楽コンクール	楽都仙台
<p>（事業概要・目的）</p> <p>平成 13（2001）年に仙台開府 400 年を記念して、才能ある若い音楽家を輩出することにより、世界の音楽文化の振興及び国際的文化交流の推進に寄与することを目的に創設。ヴァイオリンとピアノの 2 部門があり、3 年に 1 度開催。</p> <p>協奏曲を課題曲の中心に据えるという特色を持ち、公正で信頼性の高い運営、市民ボランティアの温かいホスピタリティが審査委員や出場者から高く評価されている。</p>	
<p>（成果・実績）</p> <p>【第 8 回（令和 4 年 5 月～6 月開催）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 申込者数：計 573 人（過去最高） 内訳：ヴァイオリン部門 135 人、ピアノ部門 438 人 ・ 来場者数：9,772 人 ・ 配信動画視聴：時間 57,696.5 時間、回数：454,500 回（いずれも前回比約 40%増） <p>回を重ねるごとに出場者のレベルが向上し、過去の入賞者は他の国際コンクールでも入賞する等、世界的な活躍をしている。また、関連事業として、開催期間中は、出場者による無料のライブや学校訪問コンサート、審査員によるマスタークラスを、開催後は優勝者によるコンサート、入賞者と市民オーケストラとの共演等を実施しており、地域にも還元がなされている。</p>	

（文化振興課）

仙台クラシックフェスティバル	楽都仙台
<p>（事業概要・目的）</p> <p>クラシック音楽の新しい楽しみ方を提案し聴衆拡大を図ること、本市でこれまで育まれてきた音楽的財産を都市の魅力や活力の創出に繋げていくことを目的に開催。「せんくら」の愛称で親しまれ、低額な入場料、多彩なプログラム、短い公演時間をコンセプトに、誰もが気軽にクラシック音楽の名曲を楽しめるイベント。</p> <p>平成 18（2006）年から毎年秋の 3 日間で開催。</p>	
<p>（成果・実績）【令和 4 年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開催期間：9 月 30 日～10 月 2 日 ・ 延来場者数：約 25,500 人 ※開催期間前や期間中の関連事業含む ・ チケット実売枚数：22,034 枚（68 公演中 44 公演完売） ※前売券の約 11%は県外で購入 ・ ボランティア 合計 104 人（会場運営 79 人、カメラマン 15 人、会場花装飾 10 人） 	

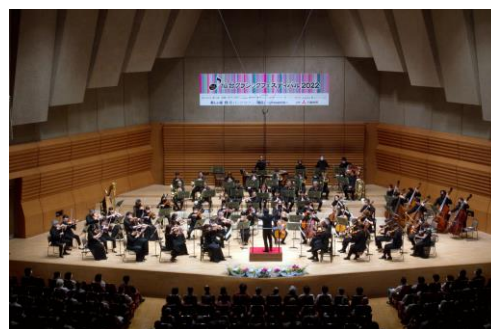
仙台フィルハーモニー管弦楽団の支援	楽都仙台
<p>(事業概要・目的)</p> <p>仙台フィルハーモニー管弦楽団は、本市を中心に国内での公演等を行うほか、仙台国際音楽コンクールのホストオーケストラ、仙台ジュニアオーケストラの指導、仙台クラシックフェスティバルへの出演など、楽都仙台の中心的な役割を担っている。楽団の運営経費の一部を補助することで、安定的な活動を支援している。</p>	
<p>(成果・実績)</p> <p>【令和3年度実績】</p> <p>①自主公演の開催：定期演奏会（14日14公演）、特別演奏会（6日6公演） ※コロナの影響により、特別演奏会2公演が中止</p> <p>②依頼公演への出演：55公演 ※コロナの影響により、20公演が中止</p> <p>③その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室内楽による学校訪問ミニコンサート ※コロナの影響により、例年開催しているオーケストラ鑑賞会の代替 ・仙台ジュニアオーケストラの指導 	

仙台ジュニアオーケストラ	楽都仙台
<p>(事業概要・目的)</p> <p>音楽芸術の創造者や地域の文化リーダーとなるべき人材を育成し、本市の音楽文化の一層の振興及び発展を図ることを目的に平成2（1990）年5月に発足。</p> <p>小学校5年生から高校2年生の約100人で構成され、青年文化センターを会場に、月4回程度の練習と10月の定期演奏会、3月のスプリングコンサートを中心に活動を行っている。令和3年度よりスーパーバイザーに指揮者の高関健氏が就任。練習指導は、発足当初より仙台フィルハーモニー管弦楽団が務める。</p>	
<p>(成果・実績)</p> <p>【令和4年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第30回定期演奏会（10月27日）：来場者数：667人 ・2023スプリングコンサート（3月12日）：来場者数：681人 <p>※このほか、8月21日に開催されたジュニアオーケストラ・フェスティバルに出演。</p>	

劇場・音楽堂等機能強化推進事業 (音楽)	楽都仙台
<p>(事業概要・目的)</p> <p>本市の文化芸術振興の中核施設としての役割を担う青年文化センターにおいて、市民の文化活動・鑑賞・交流創造の支援という施設の社会的役割を果たすべく、地域ニーズを踏まえた公演、人材育成、普及啓発事業を実施。</p>	
<p>(成果・実績)【令和4年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none">・オーケストラスタンダード (来場者数：1回目 600人、2回目 489人) ※低廉価格でオーケストラの定番曲を楽しめるクラシック初心者向けコンサート・仙台フィルの音楽物語 (来場者数：542人) ※子供たちとその保護者をメインターゲットとしたオーケストラコンサート・せんくら・リラックス・コンサート (来場者数：午前 111人 午後 93人) ※年齢・障害等に関わらず誰でも鑑賞・参加ができるバリアフリーコンサート	



第8回仙台国際音楽コンクール



仙台クラシックフェスティバル 2022

舞台芸術振興事業	劇都仙台
<p>(事業概要・目的)</p> <p>せんだい演劇工房 10-BOX を拠点に、演劇の裾野拡大、劇作家・俳優・舞台技術者・製作者など幅広い人材の技術向上・育成・発掘など、舞台芸術全般の振興を図るもの。</p> <p>①せんだい短編戯曲賞</p> <p>平成 24 (2012) 年度から実施している全国公募の戯曲賞。次代の演劇を担う人材の育成・発掘、若い世代の作家の作品上演の機会増加を目指す。作品上演と募集をそれぞれ隔年で実施。</p> <p>②若手育成事業 演劇と表現の講座</p> <p>中高生をはじめとする若者や、これまで演劇と関わりのなかった方が演劇に親しめる機会の醸成を目指す、演劇の身体表現等を学ぶ講座。</p> <p>③舞台スタッフ・ラボ</p> <p>舞台監督・音響・照明等の舞台技術を学ぶ事業。初心者向けの「基礎コース」と、現場体験を通してより専門的な技術を学ぶ「発展コース」を実施。開講前にテーマを絞りトークセッション等を行う「オープン講座」も実施。</p> <p>④10-BOX 鑑賞型プログラム</p> <p>市民への演劇の鑑賞、参加機会の提供や舞台芸術の可能性を拡げることが目的に、地元の劇団の創作公演や県外の精鋭な劇団との共催公演、演劇との関わりが少ない学生・子育て世代等との舞台作品の創作やアウトリーチ公演等を実施。</p>	
<p>(成果・実績)【令和 4 年度実績】</p> <p>①第 8 回せんだい短編戯曲賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大賞作品を決定 (応募総数 286 作品)。3 月末に最終候補 10 作品をまとめた戯曲集を発行。 ※令和 4 年 3 月 1 日～3 月 31 日に作品を募集。大賞作品の上演は令和 5 年度に実施予定。 <p>②若手育成事業 演劇と表現の講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・俳優とともにコミュニケーションを学ぶ講座「10-BOX 楽しく語る技術講座 “推し” を魅力的に語る」を計 4 回開催 (参加者数：計のべ 23 人)。 <p>③舞台スタッフ・ラボ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープン講座：参加者数 (12 人) ※テーマは高校・学生演劇 ・基礎コース：参加者数 (17 人) ・発展コース：参加者数 (7 人) ・模擬公演に舞台技術スタッフとして参加 ※発展コース参加者対象 <p>④10-BOX 鑑賞型プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 2 年度に制作・上演した、子育てをテーマとした舞台作品「子育ていろいろ 晴れときどき嵐」のオンライン版を創作し、YouTube にて動画を無料公開したほか、児童館等でのアウトリーチ公演を行った (計 2 回、親子 20 組参加)。 ・閉校した学校の校舎を会場に地域住民との連携のもと、演劇を中心とした舞台芸術等の企画を多数盛り込んだ「にっかわ文化祭」を 2 日間にわたり実施 (来場者数：計 299 人)。 	

古典芸能振興事業	劇都仙台
<p>(事業概要・目的)</p> <p>能楽を中心とした古典芸能の普及を図る事業。仙台市能楽振興協会との共催により低価格で本格的な能の公演「市民能楽講座」を開催するほか、能-BOX を会場に古典芸能の座学講座や子どもを対象とした能の体験講座等を行う。</p>	
<p>(成果・実績)【令和4年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none">・市民能楽講座（1月22日）：入場者数（396人）・こどものための能講座（7月22日～8月5日） 参加者数：16人（未就学児4人、小学生11人、中学生1人） ※4歳から15歳までの子どもを対象とした能のお稽古（謡と仕舞）体験。1回30分の稽古5回と発表会を行う。講師は観世流能楽師・山中迺晶氏。・能-BOXゼミナール（8月6日～11月19日） 「歴史から繙く日本の芸能」を総合テーマに専門家を招き5つの講座を開催 来場者数（160人）・能-BOX展示企画 能面・能衣装・能道具展「秘セズガ花―隠サズ、見セマス、能ノ世界」 （2月5日～2月19日）：来場者数（241人）	



「子育ていろいろ 晴れときどき嵐」
(令和2年12月上演/ 撮影：小田島万里)



能-BOX展示企画 能面・能衣装・能道具展
「秘セズガ花―隠サズ、見セマス、能ノ世界」

劇場・音楽堂等機能強化推進事業（舞台芸術）	劇都仙台
<p>(事業概要・目的)</p> <p>本市の文化芸術振興の中核施設としての役割を担う青年文化センターにおいて、市民の文化活動・鑑賞・交流創造の支援という施設の社会的役割を果たすべく、地域ニーズを踏まえた公演、人材育成、普及啓発事業を実施。</p>	
<p>(成果・実績)【令和4年度実績】</p> <p>①大前光市（義足のダンサー）×熊谷駿（サクソプレイヤー）「Sendaiscape」 来場者数：令和5年1月27日（86人）、令和5年1月28日（96人） ※義足のコンテンポラリーダンサーと仙台ゆかりのサクソプレイヤーとのコラボレーション公演。障がいの有無を超えた表現により、差別や偏見のない寛容な地域社会の実現を目指す。</p> <p>②パフォーマンスフェスティバル（3月21日） 公募による出演者数：20組（56組の応募から動画審査により選考） ※青年文化センター全館を使用し、様々な実演芸術の上演、鑑賞の場を創出する企画。地域を拠点に実演活動を行うパフォーマーのほか、公募出演者のステージも設ける。</p> <p>③ダンスのいりぐちプログラム（リトルダンス、だれでもダンス） ・リトルダンス（0～3歳の子どもと家族）：参加者数（10組20人） ・だれでもダンス（4歳以上）：参加者数（14人） ※世代や経験の差、障がいの有無も全く異なる参加者が集まり、型にとらわれない自由な発想でダンス作品の創作・上演を行うプログラム。各プログラムとも計4回のワークショップとパフォーマンスフェスティバルでの発表を行う。</p> <p>④ダンスワークショップ（踊らないダンスワークショップ） ・音編：参加者数14人/定員16人 ・写真編：参加者数18人/定員16人 ※ダンス愛好者が交流し、鑑賞の新たな視点を得られる場を展開。その場で生まれる音とダンスとのコミュニケーションを探る「音編」と、舞踊家が街に現れ、風景の中の踊りを切り取る「写真編」を実施。</p>	



パフォーマンスフェスティバル

(文化振興課)

仙台文学館における取組	文学普及啓発
<p>(事業概要・目的)</p> <p>郷土にゆかりのある文学資料を収集・保存・展示し、一般の利用に供して、郷土の文学的風土と伝統を継承する。同時に、郷土の文学者等の活動や作品の発掘、再評価を行い、文学活動の育成と振興を図ることにより、郷土の芸術文化の創造と発展に寄与する。</p>	
<p>(成果・実績)</p> <p>【令和4年度特別展・企画展】</p> <ul style="list-style-type: none">・特別展「椎名誠 旅する文学展」(令和4年4月23日～6月26日)・子ども文学館えほんのひろば「忍ペンまん丸」(令和4年7月16日～9月11日)・特別展「山内ジョージ文字絵の世界」(令和4年10月1日～12月11日)・新春ロビー展「100万人の年賀状展」(令和5年1月11日～2月12日)・写真展「仙台コレクション」(令和5年1月21日～3月21日) <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none">・令和3年度展示観覧者数 29,234人 <p>※展示事業のほか、短歌や俳句、川柳、落語、童話、古典文学等を学ぶ講座「仙台文学館ゼミナール」短歌・俳句・川柳の合同吟行会「ことばの祭典」等も実施。</p>	

(文化振興課)

土井晩翠顕彰事業	文学普及啓発
<p>(事業概要・目的)</p> <p>仙台市出身の詩人土井晩翠の偉業を顕彰するため発足した土井晩翠顕彰会が解散したことを受け、仙台文学館と本市で協力して引き継ぎ、晩翠の偉業を広く知っていただくことを目的としている。小中学生の詩作品を対象とした晩翠わかば賞・晩翠あおば賞や記念行事等を実施。</p>	
<p>(成果・実績)【令和4年度実績】</p> <p>①晩翠わかば賞あおば賞</p> <ul style="list-style-type: none">・応募期間：6～8月、応募作品数603編・贈呈式(10月16日)：受賞者7人への賞状と記念品授与 <p>②記念行事</p> <ul style="list-style-type: none">・「荒城の月」市民大合唱(コロナの影響により中止) <p>※コロナ禍前は、晩翠の命日10月19日に市内の小中学生等による合唱行事を開催。</p> <ul style="list-style-type: none">・朗読と音楽の調べ「没後70年 土井晩翠作品を味わう」(10月22日)	

市民の文化活動への支援（１）	市民活動支援
<p>(事業概要・目的)</p> <p>①公演・展示活動助成事業 市民が自ら行う、仙台市の文化芸術の振興・普及に資する公演・展示・上映会等の活動に対し、事業に直接かかる会場費と広報宣伝・印刷費の一部を助成。</p> <p>②文化芸術の創造・発信助成事業（創造発信助成） 新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、仙台市内の文化芸術活動の再開と継続に向け、仙台の文化芸術の振興、郷土の歴史の継承及びその普及に資する優れた創造・発信を行う事業に対し、上限額（50万円）の範囲内で事業費を助成。</p> <p>③持続可能な未来へ向けた文化芸術の環境形成助成事業（環境形成助成） ウィズコロナ・アフターコロナの時代を見据え、地域における文化芸術の創造力や発信力を高め、まちづくりや人びとの暮らしの課題解決に寄与するため、高い独自性や優れた発信力もしくは社会課題解決に寄与する公益性の高い事業に対し、上限額（200万円）の範囲内で事業費を助成。</p>	
<p>(成果・実績)【令和４年度実績】</p> <p>①公演・展示活動助成事業（活動助成） ・第１期：採択決定数（49件） ・第２期：採択決定数（73件）</p> <p>②文化芸術の創造・発信助成事業（創造発信助成） 採択数（55件）、採択率（30.6%）</p> <p>③持続可能な未来へ向けた文化芸術の環境形成助成事業（環境形成助成） 採択数（17件）、採択率（23.9%）</p>	

市民の文化活動への支援（２）	市民活動支援
<p>(事業概要・目的)</p> <p>【仙台市文化芸術賞】 本市在住、または活動拠点を置く個人・団体等を対象に、文化芸術の分野において優秀な成績を収めた個人及び団体に対して、その功績をたたえ顕彰を行う。令和４（2022）年度創設。</p>	
<p>(成果・実績)【令和４年度実績】 6人2団体（声楽、ピアノ、指導者、囲碁、書道）</p>	

市民の文化活動への支援（３）	市民活動支援
<p>(事業概要・目的)</p> <p>【名義後援】</p> <p>市民文化の向上普及に寄与するものと認められる文化芸術行事に対して「仙台市」の後援名義の使用を承認している。また、市長の名義を使用した賞状、盾の交付承認も併せて行っている。</p>	
<p>(成果・実績)</p> <p>【令和３年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none">・名義後援：114 件・市長賞授与：賞状 97 点、楯 3 点	

学校・保育所等への芸術家派遣事業	文化力活用
<p>(事業概要・目的)</p> <p>本市及び地域の文化団体等で組織する「仙台市文化芸術による子供育成総合事業実行委員会」が主体となり、文化庁の委託を受けて、学校・幼稚園・保育所・児童館などへ芸術家（音楽・演劇・大衆芸能・伝統芸能・美術・ダンス・文学など）を派遣する事業。</p>	
<p>(成果・実績)</p> <p>【令和３年度実施状況】</p> <p>〈施設区分別〉</p> <p>幼稚園（９件）、保育所（20件）、認定こども園（５件）、児童館（31件）、小学校（24件）、中学校（１件）、高校（３件）、特別支援学校（６件）、その他（６件）</p> <p>〈ジャンル別〉</p> <p>音楽（31件）、演劇（20件）、舞踊（３件）、大衆芸能（34件）、伝統芸能（16件）、文学（１件）、美術（０件）</p>	



学校・保育所等への芸術家派遣事業

音楽の力による震災復興	文化力活用
<p>(事業概要・目的)</p> <p>震災直後から被災者の心の復興を支えてきた音楽を、復興公営住宅や防災集団移転先での被災者交流支援等にも活用し、楽都仙台らしい復興を進めるため、平成 26 (2014) 年度より (公財) 音楽の力による復興センター・東北に委託し、音楽の力による震災復興支援事業を実施している。</p> <p>1. 復興公営住宅入居者の交流支援 (うたカフェ、音楽ひろば)</p> <p>①うたカフェ オペラ協会の歌手を派遣し、合唱練習や体ほぐし運動、演奏鑑賞、お茶のみを行いながら、参加者同士の交流を深めるもの。</p> <p>②音楽ひろば 未就学児とその保護者を対象に、プロの音楽家を派遣し、音楽に触れることを通じて未就学児の豊かな感性を育み、子育て世代の参加者同士の交流を深めるもの。</p> <p>2. 復興コンサートの開催 被災者からの要望に応じ、市内各所での復興コンサートを開催するもの。</p> <p>3. みやぎの「花は咲く」合唱団の活動支援 宮城野区の仮設住宅等に入居していた概ね 60 歳以上の方々に構成する合唱団の活動支援。活動は毎月 1 回の練習と演奏会等への出演 (年数回)。</p> <p>4. 震災復興メモリアルコンサート 地下鉄東西線荒井駅に併設の「せんだい 3.11 メモリアル交流館」を会場とし、震災後、被災地での復興コンサートの活動を行ってきた方々によるミニコンサートを開催。被災者の心の復興を支えてきた音楽の力を多くの市民に知っていただくもの。</p>	
<p>(成果・実績)【令和 3 年度実績】</p> <p>1. 復興公営住宅入居者の交流支援 (うたカフェ、音楽ひろば)</p> <p>①うたカフェ：実施 17 回 (中止 12 回)</p> <p>②音楽ひろば：新型コロナウイルスの影響により中止</p> <p>2. 復興コンサートの開催 実施 2 回 (中止 1 回)</p> <p>3. みやぎの「花は咲く」合唱団の活動支援 講習 1 回、練習 12 回 (中止 1 回)、本番 1 回</p> <p>4. 震災復興メモリアルコンサート 実施 4 回 (中止 1 回)</p>	

各種機関との協働連携事業	協働・連携			
<p>(事業概要・目的)</p> <p>①宮城県芸術祭 宮城県芸術協会や地元文化団体等との共催による年間を通じて開催される芸術祭。期間中、絵画・彫刻・工芸・書道・華道・写真等の展示や洋楽・邦楽の音楽会を開催。本市は共同主催として、負担金の交付、公募展への市長賞の交付等を行う。</p> <p>②東京藝術大学早期教育プロジェクト 東京藝術大学の教員が全国各地を訪れ、子供たちに高度の専門的な音楽教育を無料で提供する公開レッスン。平成 26 (2014) 年度開始。無料で聴講もでき指導者の育成にも資する事業。</p> <p>③東北福祉大学連携「TFU ギャラリーMini Mori」 東北福祉大学仙台駅東口キャンパスに設置された展示施設。東北福祉大学・仙台市・河北新報社の 3 者で「地域人材育成及び社会貢献事業に関する包括的連携協定書」等を締結、地域企業等と連携した教育、文化の向上等に資する事業を実施。</p> <p>④仙台短編文学賞 震災を経験した仙台から次代の文学が生まれることを願い、民間実行委員会が創設。本市は第 2 回から「協力」という位置づけで、市長賞の授与等を行っている。 ※第 3 回大賞を受賞した佐藤厚志さんは「荒地の家族」で第 168 回芥川賞を受賞。</p> <p>⑤劇団四季連携 本市では、ロングラン公演の際に名義主催を行っており、広報協力を実施している。また、単発公演においても、名義後援や広報協力を行っている。</p>				
<p>(成果・実績)</p> <p>①第 58 回宮城県芸術祭【令和 3 年度実績】 ・期間内全事業総来場者数：17,594 人</p> <p>②東京藝術大学早期教育プロジェクト【令和 4 年度実績】 ピアノ部門 (12 月 10 日)・ヴァイオリン部門 (12 月 11 日)・金管部門 (2 月 5 日) 受講者総数：計 18 人 聴講者総数：計 105 人</p> <p>③東北福祉大学連携「TFU ギャラリーMini Mori」【令和 4 年度実績】 ・7 月 30 日～8 月 28 日：「東京卍リベンジャーズ」原画展 ・1 月 26 日～2 月 26 日：「ジョジョの奇妙な冒険」アニメ 10 周年記念展</p> <p>④第 6 回仙台短編文学賞【令和 4 年度実績】 ・作品募集 (7 月 1 日～11 月 15 日)：応募数 218 編 ※3 月に各賞発表、翌 4 月に授賞式を開催。</p> <p>⑤劇団四季連携【劇団四季ロングラン仙台公演開催実績】(直近開催分)</p>				
開催年	作品名	公演回数	動員数	動員率
平成 27 年	美女と野獣	78 回	93,288 人	86.2%
平成 30 年	オペラ座の怪人	80 回	114,700 人	97.6%
令和 4～5 年	リトルマーメイド	96 回	130,000 人 (見込)	

(文化振興課)

音楽ホール整備事業	環境整備
<p>(事業概要・目的)</p> <p>かねてより整備検討を進めてきた音楽ホールを、中心部震災メモリアル拠点との複合施設として、せんだい青葉山交流広場（地下鉄東西線国際センター駅隣接）に整備するもの。</p> <p>音楽ホールは「仙台の文化芸術の総合拠点」、中心部震災メモリアル拠点は「災害文化の創造拠点」となることを目指し、整備に向けた検討を進めている。</p>	
<p>(成果・実績)</p> <p>有識者による懇話会を設置して基本構想の検討を行っており、令和5年夏頃の策定を目指している。</p> <p>懇話会は全6回の開催を予定しており、現在までに4回実施している。また、令和5（2023）年2月に市民向けシンポジウムを開催するなど、整備に向けた機運の醸成にも取り組んでいる。</p>	

(観光課)

まつり等開催支援	観光活用
<p>(事業概要・目的)</p> <p>交流人口のさらなる拡大を図るとともに、地域経済の活性化を図るため、大型観光イベント（※）の開催を支援し、観光客の誘致を図る。大型観光イベントへの「補助金・負担金の支出」「市長等の役員への就任・開会式への出席等」「広報支援」「市役所庁舎・敷地の利用」「名義共催・後援等」を実施している。</p> <p>※①仙台・青葉まつり②仙台七夕花火祭③仙台七夕まつり④定禅寺ストリートジャズフェスティバル⑤みちのく YOSAKOI まつり⑥SENDAI 光のページェント</p>	
<p>(成果・実績)【令和4年度実績】</p> <p>各イベントの来場者数は以下のとおり。カッコ内は前回開催実績を掲載。</p> <p>①仙台・青葉まつり 5月14～15日 来場者数約43万人（令和元年度約97万人）</p> <p>②仙台七夕花火祭 8月5日 来場者数約45万人（令和元年度約50万人）</p> <p>③仙台七夕まつり 8月6日～8日 来場者数約225万人（令和元年度約134万人）</p> <p>④定禅寺ストリートジャズフェスティバル 9月10日～11日 来場者数約20万人（令和元年度約77万人）</p> <p>⑤みちのく YOSAKOI まつり 10月8日～9日 来場者数約45万人（平成30年度約45万人）</p> <p>⑥SENDAI 光のページェント 12月9日～25日 来場者数約170万人（令和3年度約110万人）</p>	

多様なコンテンツを活用した誘客推進	観光活用
<p>(事業概要・目的)</p> <p>仙台ならではのコンテンツを発掘・創出するとともに、既存の資源の磨き上げを行う。観光やビジネスなど様々な目的で仙台市を訪れる方々のため、ターゲットやテーマを明確化したプロモーションを推進する。</p> <p>①漫画・アニメコンテンツを活用した誘客推進</p> <p>本市にゆかりのある漫画やアニメコンテンツを活用し、本市への誘客及び市内周遊・宿泊促進に繋げる取組みを実施する。</p> <p>②せんだい・宮城フィルムコミッション</p> <p>県内での映画作品の誘致や支援を通じて仙台市・宮城県の魅力を発信する。</p> <p>③体験プログラム創出</p> <p>「日本一の体験都市」を目指し、伝統工芸等のものづくり体験や、茶道や踊り等の文化体験など、1,000本を超える様々な体験プログラムを専用ウェブサイト「仙台旅先体験コレクション」で紹介するなど利用促進を行う。</p>	
<p>(成果・実績)</p> <p>①漫画・アニメコンテンツを活用した誘客促進【令和4年度実績】</p> <p>「ジョジョの奇妙な冒険×地球の歩き方」の発売を機に、地球の歩き方とコラボレーションし本市誘客に繋がるTwitterキャンペーンを8月1日～31日を実施した。また、1月21日から開催されているアニメ10周年記念展等のイベントに合わせ、周遊チラシを作成。その他、「呪術廻戦」、「バクテン!!」、「BLUE GIANT」などの作品でキャンペーンやデザインマンホール設置等を行った。</p> <p>②せんだい・宮城フィルムコミッション【令和3年度実績】</p> <p>市内でのロケ地調整や使用許可等の支援を実施。誘致に伴う令和3年度の直接経済効果は52,000千円。産業連関表に基づく二次波及効果は約87,000千円。</p> <p>③体験プログラム創出事業【令和4年度実績】</p> <p>体験プログラムの利用促進のため、6月25日～8月28日まで「仙台旅コレフェス」を開催。実施期間中の「仙台旅先体験コレクション」PV数が前年同月比で+50%となった他、利用に繋がるコンバージョン数も+60%となった。</p>	



仙台旅先体験
コレクション



障害者の文化芸術活動への支援	障害者活動支援
<p>(事業概要・目的)</p> <p>障害のある方の文化芸術の鑑賞および作品の制作等を支援するため、文化観光局と健康福祉局との連携による取組のほか、様々な事業を実施している。</p> <p>①もりのみやこのふれあいコンサート</p> <p>障害のある方やその付き添いの方を対象に、本市を代表する文化インフラである仙台フィルハーモニー管弦楽団による本格的なオーケストラの演奏鑑賞の機会を提供し、芸術文化活動を振興することを目的に実施している。</p> <p>※令和3年度～令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大のためオンライン配信</p> <p>②各種障害福祉団体助成</p> <p>民間団体による、障害者の文化芸術・社会参加の促進に寄与する行事等（とっておきの音楽祭等）に対し、補助金を交付している。</p> <p>③障害者による書道・写真・絵画コンテストの実施</p> <p>障害者による書道・写真・絵画コンテストを開催。入賞作品については全国コンテストに推薦するほか、「ウエルフェアアート展」(※)として市内障害者福祉センター等に展示した。また、コンテストへの応募を目標とした書道・写真・絵画の教室も実施している。</p> <p>※障害者週間の間、市内障害者福祉センター等で各種展示を行うもの。</p> <p>④紙上交流誌「わっか」の発行</p> <p>障害のある方の写真やイラスト、短歌や俳句等の作品を募集し、作品を紹介する冊子を作成している。</p>	
<p>(成果・実績)【令和4年度実績】</p> <p>①もりのみやこのふれあいコンサート</p> <ul style="list-style-type: none">・配信期間：令和4年12月26日～令和5年1月31日・視聴回数：2,659回 <p>②各種障害福祉団体助成</p> <p>例年、とっておきの音楽祭実行委員会、障害児(者)を守る日実行委員会、仙台市知的障害者芸術文化協会に対し、補助金を交付している。</p> <p>③障害者による書道・写真・絵画コンテストの実施</p> <ul style="list-style-type: none">・応募作品数：書道の部69点、写真の部19点、絵画の部50点・写真、書道、絵画教室等への参加者：99人 <p>④紙上交流誌「わっか」を発行（発行回数：1回）</p>	

美術・映像・メディアに関する企画事業（１）	メディアテーク
<p>(事業概要・目的)</p> <p>●美術・映像を軸としたアート事業 メディアテークの設置趣旨を具現化し、東北圏における美術・映像・デザイン・メディア文化の拠点としての、先進的・啓発的な事業を行う。</p> <p>【自主企画による展覧会や上映会の開催と出版（主に直近の動き）】</p> <p>①メディアテーク発の展覧会や上映会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016 年度展覧会 「畠山直哉 まっふたつの風景」 ・2017 年度展覧会 「コンニチハ技術としての美術」 ・2018 年度展覧会 「ヒスロム 仮設するヒト」 ・2019 年度展覧会 「青野文昭 ものの、ねむり、越路山、こえ」 ・2021 年度開館 20 周年記念展 「ナラティブの修復」 ・2022 年度上映会 「青山真治監督特集 in 仙台」 <p>②出版による発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017 年度 『コミュニティ・アーカイブをつくろう』（晶文社） など ・2022 年度 『つくる〈公共〉50 のコンセプト』メディアテーク編（岩波書店） <p>③仙台のまちにアートの現場をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せんだい・アート・ノード・プロジェクト ※別掲 ・諸団体との共催による企画 <p>④学生や市民団体との共催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せんだいデザインリーグ 卒業設計日本一決定戦（国内最大規模の建築の卒業設計コンクール。複数大学学生による仙台建築都市学生会議とメディアテークの共催） ・仙台短篇映画祭 ほか <p>⑤アートやメディアを軸とした社会包摂にかかる事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022 年度展覧会「定禅寺パターゴルフクラブ」 ・レインボーアーカイブ仙台（LGBTQ にまつわる震災の記録） ・障害者の生涯学習 講座「スウプノアカデミア」 ほか 	
<p>(成果・実績)</p> <p>①展覧会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開館から 5 年間開催された「せんだいアートアニュアル」（美術や映像など作品のジャンルを問わず、広く国内へ出品を募集して開催する公募展）の出品者は、現在、仙台のアート界隈における中心人物として活動、地域人材輩出につながっている。 ・2011 年の東日本大震災以降、「考えるテーブル」という家具を舞台とする対話とともに開催される現代美術の展覧会は、被災地の公共文化施設として独自のものを発信。それぞれの作家の作品は、その後、国内外での展覧会や国際芸術祭に選出されている。 <p>②出版</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『コミュニティ・アーカイブをつくろう！』は、翻訳され、韓国の出版社から発行。 	

美術・映像・メディアに関する企画事業（２）	メディアテーク
<p>(事業概要・目的)</p> <p>●地域文化アーカイブ事業</p> <p>地域における生涯学習・美術・映像に関わる活動による成果を「コミュニティ・アーカイブ」と総称し、デジタルメディアでの収集・制作および保存・資料化、活用を行う事業。</p> <p>①同時代の資料や市民協働によるアーカイブ活動成果の収集 〈独自の調査研究に基づくアーカイブ〉</p> <ul style="list-style-type: none">・上映会「映像の仙台史」 ほか <p>〈市民との協働によるアーカイブ〉</p> <ul style="list-style-type: none">・東北の民話の記録 DVD/CD 化、写真展「細倉を記録した寺崎英子」 ほか・東日本大震災にかかる市民協働アーカイブ「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の開設 ※別掲 <p>②コミュニティ・アーカイブの拠点形成 〈先進事例などに関する調査研究や普及活動〉</p> <ul style="list-style-type: none">・草アーカイブ会議※（2015年、2017年）開催、事例調査等継続中 ほか <p>※草アーカイブとは、誰もが関わることができる、ごく日常的な文化活動としてのアーカイブで一般的には「コミュニティ・アーカイブ」という言葉が使われている。</p>	
<p>(成果・実績)</p> <ul style="list-style-type: none">・みやぎ民話の会の活動や展示、採訪した記録を囲む場は、アカデミー賞国際長編映画賞を受賞した映画監督の濱口竜介など多くの若手アーティストに影響を与えた。・市民協働で実施した、写真展「細倉を記録した寺崎英子」は栗原市で、「黒川郡大和町柘沢のくらしくなりわい」が結ぶ山・村・人」は大和町で、それぞれの町での巡回展示につながるコンテンツになるなど、他事業においても同様の実績多数。・コロナ禍には、せんだいメディアテークが制作・所蔵する映像音響資料をオンライン公開するチャンネル「せんだいメディアテーク・オンライン」での発信を実施。展覧会のほか、当館の取り組みの記録や市民協働による活動の成果をまとめた「smtコレクション」のコンテンツなどを紹介。（現在88本公開。総再生回数15万超）	



展覧会「畠山直哉 まっぴたつの風景」



上映会「映像の仙台史」

3がつ11にちをわすれないためにセンター (わすれん！)	メディアテーク
<p>(事業概要・目的)</p> <p>東日本大震災という大きな出来事に向き合い、ともに考えるために、平成23(2011)年5月3日、せんだいメディアテークに開設されたプラットフォーム。市民、専門家、アーティストなどさまざまな立場の人びとが参加者となり、ともに震災にまつわる事柄を記録し、発信している。参加者は、個々の視点からとらえた震災を、映像、写真、音声、文章などで記録してきた。それらは整理・保存され、さまざまな形で活用されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わすれん！資料室：メディアテーク2階の常設展示 ・星空と路：毎年3月に開催する展示と上映会 ・ウェブサイト：資料の一部を公開 	
<p>(成果・実績)</p> <p>①3月12日はじまりのごはん—いつ、どこで、なに食べた？— 食事にまつわる震災の記録写真の展示を介して被災当事者のみならず、被災という出来事を共有、伝承する展覧会。熊本地震被災地などでも展開された。</p> <p>②参加者の活躍 映画監督・濱口竜介氏や小森はるか氏、アーティスト・瀬尾夏美氏など、20～30代の若手作家が多く関わり、その後それぞれの分野で活躍を続けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・濱口竜介氏(映画監督)東北記録映画三部作のひとつ『うたうひと』が山形国際ドキュメンタリー映画祭・スカパー！IDEHA賞 ・小森はるか氏(映像作家)+瀬尾夏美氏(美術家、作家)制作『二重のまち／交代地のうたを編む』の劇場公開 <p>③海外の研究者との接続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワシントン大学翻訳プロジェクトによるわすれん！記事の英文翻訳(アメリカ・シアトル) ・ブリティッシュ・コロンビア大学人類学博物館の展覧会「FUTURE FOR MEMORY: Art and Life After the Great East Japan Earthquake／記憶のための未来—東日本大震災後のアートと暮らし」への資料提供、およびオンライン対談への参加(カナダ・バンクーバー) など <p>④国内の研究者との接続 大学の講義での資料としての活用、出版物での紹介など多数。山本浩貴氏著『現代美術史』(中公新書2019)の中では、現代アートとして紹介されている。</p> <p>⑤ウェブサイト 現在379本公開、総再生回数50万超</p>	

せんだい・アート・ノード・プロジェクト	メディアテーク
<p>(事業概要・目的)</p> <p>現代アートの持つ発見性、吸引力、発信力を取り込みながら、アートプロジェクトを展開することを通じて、街の魅力と人々の活気を引き出すことを目的とし、せんだいメディアテークが培ってきた文化芸術の発信力を生かして、これまでの鑑賞にとどまらない活動を市内各所で展開する。アーティストが地域に滞在して作品を制作するほか、アートについて語り合う場を設けるなどの事業を市民とともに実施している。平成 28 (2016) 年度から開始。主な事業は以下のとおり。</p> <p>(1) 地域展開事業</p> <p>①川俣正/仙台インプログレス (平成 29 年度～現在)</p> <p>世界各地で住民との協働を数多く展開してきたアーティスト川俣正によるプロジェクト。被災した沿岸部の貞山運河沿いで地域との関係を深めながらアート作品の制作を展開している。</p> <p>②藤浩志/ワケあり雑がみ部 (平成 29 年度～現在)</p> <p>アーティスト藤浩志を迎え「アート活動を通じた雑がみの収集啓発・雑がみ素材利用 (不要物を資源として価値づける)」を目的とした市民交流プログラム。</p> <p>③東北リサーチとアートセンター (平成 29 年度～令和 2 年度)</p> <p>地域資源の可視化 (東北の中の仙台・東北を表現する)</p> <p>パートナー団体:「やわらかな土から」(構成員:一般社団法人 NOOK、特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン、3.11 オモイデアーカイブ)</p> <p>(2) コミュニケーション事業</p> <p>①TALK (現代アートや周辺領域のアーティストや専門家等のトークを協働者が企画)</p> <p>②JOURNAL (仙台・東北におけるアート活動との接続機会となる広報紙)</p> <p>③MEETING (市民参加型公開ミーティング)</p>	
<p>(成果・実績)</p> <p>せんだい・アート・ノード・プロジェクトを通じて市民とともに仙台のアートの土壌を耕すことが、少しずつできてきている。事業においてアート活動に関係した地域人材や団体は 400 に近い。個別の主な実績は以下のとおり。</p> <p>(1) ①川俣正/仙台インプログレス</p> <p>地域団体が川俣作品を「資源」として活用し、地域団体が独自にツアーの企画やマップづくりを行っている。また、複数の地元のアーティストがこれらの活動に伴走しており、アートによるまちづくりにつながっている。</p> <p>②藤浩志/ワケあり雑がみ部</p> <p>部員である参加者が自主グループをつくり活動を始めたり、市民センター等で講師になるなどの実績が出ている。</p> <p>(2) ②JOURNAL</p> <p>東北のアートにまつわる若手人材や創造拠点を、全国に紹介する機会につながっている。</p>	

仙台・宮城ミュージアムアライアンス (SMMA)

ミュージアム連携

(事業概要・目的)

仙台地域の博物館系施設の共同事業体として、平成 21 (2009) 年 6 月に「仙台・宮城ミュージアムアライアンス (SMMA)」を立ち上げ事業を開始した。学芸員など専門職員が持つ知識や手法を集積し、単館では実現困難な多彩なプログラムや情報発信事業を実施することにより、ミュージアムの発信力を高め、多面的な学びの場を創出するとともに、学校教育、地域活動、観光分野などとの連携を進め、地域のニーズに合った複合的かつ総合的な博物館の活用を推進する。

(成果・実績)

・ミュージアムユニバースの開催

SMMA の参加館が一堂に会し、展示、ワークショップ、トークなどを実施。ミュージアムとの出会いにより、各ミュージアムへの接続機会となっている。

・ツアーの開発

ミュージアムのおすすめルートを学芸員等の解説でまわるツアーを実施。コロナ禍前までで、15 ルート以上を開発した。

・冊子の発行 (直近のもの)

『せんだい見験図鑑』(2020.9 発行)

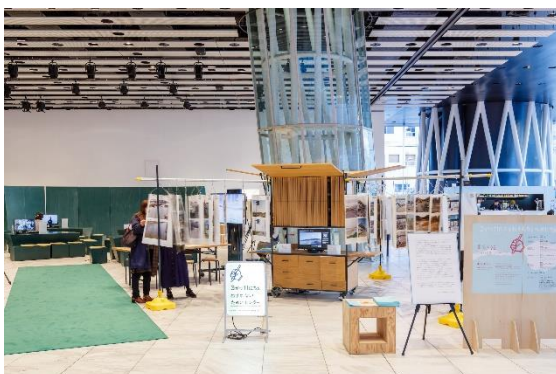
仙台のまち歩きの案内役となるテーマと、SMMA のあゆみをまとめ 10 周年記念として発行。

『ちまたのけんきゅうミュージアム』(2021.12)

穴をテーマに小学生から大人までが、ミュージアムに足を運びたくなる読み物を発行。研究者やクリエイターとの協働で制作された冊子は、市内小学校の授業や市民センター講座などで広く活用された。

・仙台の伝統門松の復元・展示

歴史ミュージアムネットワークの活動として、「仙台の伝統門松の復元・展示」を継続。仙台固有の資源の可視化により、設置場所が民間施設にも拡大している。



3 がつ 11 にちをわすれないためにセンター
星空と路



せんだいアート・ノードプロジェクト
川俣正/仙台インプログレス
「海岸沿いの新たな構想づくりワークショップ」

児童・生徒の文化芸術体験	文化芸術体験
<p>(事業概要・目的)</p> <p>児童生徒の豊かな情操を育むとともに、文化芸術への関心を高めるための優れた音楽や舞台芸術の鑑賞の機会を提供する。</p> <p>①青少年のためのオーケストラ鑑賞会 小学校5学年児童及び中学校1学年生徒を対象とした仙台フィルハーモニー管弦楽団によるオーケストラ演奏の鑑賞会。コロナ禍前は、青年文化センターに、毎年約10,000人の児童生徒を招いて開催していた。</p> <p>②ふれあいオーケストラ 小学校5学年児童を対象とした宮城教育大学交響楽団によるオーケストラ演奏の鑑賞会。コロナ禍前は、青年文化センターに毎年約1,400人の児童を招いて開催していた。</p> <p>③“こころの劇場”仙台公演 小学校6学年児童を対象とした劇団四季によるミュージカルの鑑賞会。コロナ禍前は、泉文化創造センターに、毎年約9,000人の児童を招いて開催していた。</p>	
<p>(成果・実績)【令和元年度実績】</p> <p>①青少年のためのオーケストラ鑑賞会 小学校103校、中学校22校、合わせて125校10,549人の児童生徒及び教職員が鑑賞した。実施後のアンケート調査によれば、本事業について小学校では91%、中学校では100%の学校が「とてもよかった」と回答している。児童生徒に豊かな情操を育み、文化芸術への関心を高める機会となった。</p> <p>②ふれあいオーケストラ 小学校16校、1,515人の児童及び教職員が鑑賞した。実施後のアンケート調査によれば、本事業について100%の学校が「とてもよかった」と回答している。児童に豊かな情操を育み、文化芸術への関心を高める機会となった。</p> <p>③こころの劇場 小学校119校、9,174人の児童及び教職員が鑑賞した。実施後に毎年感想文コンクールを実施し、優秀作品の表彰とともに応募作品の文集発行も行っており、46校から114点の応募があった。ダイナミックで美しい舞台や役者さん方の熱演ぶり、作品に込められたメッセージの奥深さに引き込まれ、大きな感動を味わった様子が見ええた。児童に豊かな情操を育み、文化芸術への関心を高める機会となった。</p> <p>※令和2～4年度は新型コロナウイルスの感染症拡大防止のため、①②については代替事業として「学校訪問ミニコンサート」を実施、③については劇団四季による映像配信事業を実施している。</p>	

文化財の保護管理	文化財
<p>(事業概要・目的)</p> <p>市内にある有形文化財、無形文化財、有形民俗文化財、無形民俗文化財、記念物について、下記事業などにより保護管理を行い、次世代への継承を図る。</p> <p>①文化財保護審議会 文化財の保存および活用に関する重要事項について調査審議を行い、教育委員会へ建議する(年3回程度開催)。</p> <p>②指定・登録事業 令和3年度に更新した「文化財指定・登録計画」に基づき、市内の文化財を指定・登録し、保護・管理の促進を図る。</p> <p>③補助事業 国・県・市の指定文化財を対象に補助金を給付し、保存・修理や活用を図る。</p> <p>④ミュージアム等施設の維持・管理事業 指定管理施設の歴史民俗資料館・富沢遺跡保存館・縄文の森広場のほか、仙台城見聞館、史跡陸奥国分寺・尼寺跡ガイダンス施設の維持・管理を行う。</p> <p>⑤その他の保護管理事業 文化財防火デー(毎年1月26日)に伴う指定建造物の消防事前査察や防災訓練の実施、指定文化財・未指定文化財の調査、各種手続き(現状変更等)など。</p>	
<p>(成果・実績)【令和4年度実績】</p> <p>①文化財保護審議会：3回開催(7月14日、11月30日、3月20日)。</p> <p>②指定・登録事業：陸奥国分寺鐘楼堂1棟(室町時代後期)を市有形文化財(建造物)に指定予定(教育委員会決議済み、令和5年4月告示予定)。</p> <p>③補助事業：13件の有形文化財(建造物)、および1件の無形文化財、14件の無形民俗文化財に対して補助を行った。</p> <p>④文化財防火デー関連：12月8日～1月20日、消防事前査察30件を実施。1月26日、防災訓練10件を実施。</p>	

文化財の普及啓発	文化財
<p>(事業概要・目的)</p> <p>市内にある有形文化財、無形文化財、有形民俗文化財、無形民俗文化財、記念物について、下記事業などにより普及啓発を行い、次世代への継承を図る。</p> <p>イベントの開催（文化財展、せんだい伝統文化フェア等、文化財公開の日、民俗芸能のつどい）、ふるさとギャラリー等での展示、遺跡見学会の開催、機関誌等の発行、文化財サポーター養成講座の実施、出前授業・出前講座への講師派遣、遺跡訪問・職場体験等への対応、文化財デジタル活用事業の推進、説明板・標柱の設置など。</p>	
<p>(成果・実績)【令和4年度実績】</p> <p>①文化財展（6月14日～8月21日）第76回文化財展を東北電力グリーンプラザで開催（69日間、年度後半は中止）。</p> <p>②せんだい伝統文化フェア（10月16日）大倉ふるさとセンターで開催（参加550人）。</p> <p>③城下町せんだい日本伝統文化フェア（1月21日）荒町小学校で開催（参加400人）。</p> <p>④城下町せんだい日本伝統文化体験フェア（11月～1月）東北大学萩ホールなどで計14回開催。</p> <p>⑤文化財公開の日（11月3日）「東北大学川内キャンパスをめぐる」と題して歴史的建造物の解説・見学を実施（参加28人）。</p> <p>⑥民俗芸能のつどい（2月11日）4団体（七郷神社丹波神楽、川前鹿踊・剣舞、大崎八幡宮の能神楽、秋保（馬場）の田植踊）が出演して実施（参加450人）。</p> <p>⑦ふるさとギャラリー等での展示：秋保市民センターおよび泉区中央市民センターの展示ブースで民俗・歴史・考古資料の展示を継続的に実施。</p> <p>⑧遺跡見学会の開催（10月27日）蒲生御蔵跡で実施（参加103人）</p> <p>⑨機関誌等の発行 広報誌「文化財せんだい」は、No.133～135号を10,200部ずつ発行。文化財パンフレットは、第80集「国史跡MUTSU KOKUBUNJI ATO」を新たに発行。DVD「文化財この1年（令和3年度版）」は150枚制作し、市内の公共施設などに配付した。</p> <p>⑩文化財サポーター養成講座：第15期講座で10名が全7回の講座を受講。</p> <p>⑪出前授業・出前講座への講師派遣：72校で延べ6,211人、45団体で延べ1,664人に対して実施。</p> <p>⑫職場体験への対応：12校で36人に対して実施。</p>	



せんだい伝統文化フェア in 大倉の様子（茶道体験）



土器を使った出前授業の様子

埋蔵文化財の調査、遺跡の整備	文化財
<p>(事業概要・目的)</p> <p>①市内遺跡の発掘調査 一部が国指定史跡に指定されている郡山遺跡や陸奥国分寺跡・陸奥国分尼寺跡の学術的目的に伴う範囲確認調査、および各種開発事業等に伴う郡山遺跡・仙台城跡をはじめとする市内各地の遺跡の発掘調査を実施。</p> <p>②仙台城跡整備 仙台城跡は平成 15 (2003) 年に国の史跡に指定されている。本事業は、本市の都市個性を象徴する場所として、城郭らしい景観を実現するため整備するもの。</p> <p>③陸奥国分寺跡・陸奥国分尼寺跡整備 陸奥国分寺跡は大正 11 (1922) 年に、陸奥国分尼寺跡は昭和 23 (1948) 年に、それぞれ国の史跡に指定されている。本事業は、指定地の公有化を進め、歴史公園として整備するもの。</p> <p>④郡山遺跡整備 郡山遺跡の一部が「史跡仙台郡山官衙遺跡群 郡山官衙遺跡 郡山廢寺跡」として、平成 18 (2006) 年に国の史跡に指定されている。本事業は、指定地の公有化を進め、歴史公園として整備するもの。</p>	
<p>(成果・実績)【令和 4 年度実績】</p> <p>①市内遺跡の発掘調査 約 70 件の調査を実施した (令和 5 年 2 月現在)。</p> <p>②仙台城跡整備 令和 2 年度に策定した「史跡仙台城跡整備基本計画」に基づき、城郭らしい景観づくりに向けた植生修景整備のほか、大手門復元に向けた史資料調査を行った。特に植生修景整備では、除草や樹木等の伐採により、東丸 (三の丸) の土塁の形状や規模を顕在化させ、本丸跡の石垣や地形の一部についても市街地から視認できる状態となった。また本丸跡から市街地を望む眺望も一部改善した。</p> <p>③陸奥国分寺跡・陸奥国分尼寺跡整備 これまでの整備では、発掘調査の成果に基づき、七重塔など主要堂塔部の復元整備 (遺構表示) やガイダンス施設・休息施設 (天平廻廊) の建設などを実施してきた。現在は指定地の公有化が中心であり、令和 4 年度は 1 件実施し、残りは 3 件である。</p> <p>④郡山遺跡整備 平成 19 年度から指定地の公有化を開始し、公有化率は令和 3 年度末までで約 89% である。公有化した史跡地には、郡山遺跡を紹介する解説板を設置している。現在は、「整備基本計画」策定の前提となる「保存活用計画」について、令和 5 年度末までの策定に向けて作業を進めている。</p>	

文化財の収集・保存/展示・公開/調査・研究/教育・普及	博物館
<p>(事業概要・目的)</p> <p>①企画展等の実施 仙台市博物館の常設展および特別展・企画展などを通じて貴重な文化財とその意義について周知し、市民の理解を深める事業を実施している。</p> <p>②普及啓発 学校教育、市民センターや図書館など他施設と連携し、博物館の文化財や地域の歴史に関するイベントを開催するなど、普及啓発を行っている。</p> <p>③情報発信 仙台市博物館の収蔵品や地域の歴史に関する調査や資料収集及び博物館の活動について、印刷物や動画配信、ホームページやSNSなどを通して、市民に対して情報を発信している。</p> <p>④資料レスキュー活動 地域に所在する歴史資料を把握し、災害等に際して他機関と連携しながら文化財保存のための措置を講じている。また、この取組についての普及・啓発を行っている。</p> <p>⑤収蔵文化財の保存管理 博物館が収蔵する貴重な文化財について適切な保存管理を行い、場合によっては修理を行っている。</p> <p>※博物館の長寿命化および展示リニューアルのため大規模改修を行っており、令和3年10月～令和6年3月末(予定)まで休館中。</p>	
<p>(成果・実績)【令和3年度の主な実績(5/12～9/30開館・他休館)】</p> <p>①展示観覧者数合計 75,417人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常設展(5/12～6/20、9/14～30) 展示資料数 380件 ・企画展「たっぷり わくわく 名品尽し」(5/12～6/20) 展示資料数 221件 ・特別展「古代エジプト展」(7/9～9/5) 展示資料数 246件 <p>②普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館利用：学校団体 38件、935人利用 ・館内・館外講師対応 35件、1,452人聴講 ・仙台歴史ミュージアムネットワークでの伝統門松復元事業の実施 <p>③情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『館蔵名品図録』改訂版等の刊行物や各種広報印刷物を発行 ・オリジナルグッズ2種製作 ・デジタルによる情報発信(HP・Twitter・YouTube・アプリ等) <p>※休館中も、他施設での展示活動や、市民センター等各団体との連携事業、学校への出前授業を実施しているほか、館だより等の広報印刷物発行、オリジナルグッズ製作、デジタルによる情報発信を継続的に行っている。</p>	

3 仙台市の文化関連の外郭団体

(1) 公益財団法人仙台市市民文化事業団

名称	公益財団法人仙台市市民文化事業団
設立の経過	昭和61年10月1日 設立 平成4年4月1日 財団法人仙台市泉文化振興事業協会と統合 平成16年4月1日 財団法人仙台市歴史文化事業団と統合 平成24年4月1日 公益財団法人に移行
目的	文化芸術の振興、郷土の歴史の継承及び生涯学習の支援に関する事業を行い、もって魅力ある市民の文化創造と豊かな市民生活の実現に寄与すること。
主要事業	多岐にわたる市民文化の振興と文化に関わる市民力の向上をめざし、楽都・劇都にかかる事業など各種事業の企画制作や市民の文化活動への支援などを行うほか、歴史文化の普及や生涯学習への支援を含む幅広い文化施設の運営を担っている。
組織体制	<pre> graph TD A[評議員会] --- B[理事会] B --- C[事務局] C --- D[総務課] C --- E[舞台芸術振興課] C --- F[音楽振興課] C --- G[仙台市青年文化センター] C --- H[仙台市泉文化創造センター] C --- I[仙台市歴史民俗資料館] C --- J[仙台市富沢遺跡保存館] C --- K[仙台文学館] C --- L[せんだいメデイアテーク] C --- M[せんだい3.11メモリアル交流館] </pre> <p>評議員会 理事会 事務局</p> <p>総務課 ・市民の文化活動支援 ・広報事業 等</p> <p>舞台芸術振興課 ・10-BOX/能-BOXの運営 ・劇都仙台事業 ・劇場音楽堂等機能強化推進事業 等</p> <p>音楽振興課 ・仙台国際音楽コンクール ・仙台クラシックフェスティバル ・仙台ジュニアオーケストラ 等</p> <p>仙台市青年文化センター</p> <p>仙台市泉文化創造センター</p> <p>仙台市歴史民俗資料館</p> <p>仙台市富沢遺跡保存館</p> <p>仙台文学館</p> <p>せんだいメデイアテーク</p> <p>せんだい3.11メモリアル交流館</p>
市の関わり	出捐金 1,000,000千円 (100%) 補助金 586,484千円 (令和3年度実績)

(2) 公益財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団

名称	公益財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団
設立の経過	昭和48年 設立（宮城フィルハーモニー管弦楽団） 平成元年 仙台フィルハーモニー管弦楽団へ改称 平成4年4月1日 公益財団法人に移行
目的	交響管弦楽の演奏により、音楽文化の振興・発展を図り、芸術文化の向上に寄与すること。
主要事業	定期演奏会・特別演奏会・県内巡回公演の開催をはじめ、自治体や民間企業等からの依頼公演、青少年のための音楽鑑賞教室への出演、音楽情報の調査研究、仙台ジュニアオーケストラの指導などを行う。
市の関わり	出捐金 1,000,000千円（82.6%） 補助金 317,400千円（令和3年度実績）

(3) 公益財団法人仙台観光国際協会

交流人口の拡大及び地域経済の活性化と多文化共生社会の形成による活力ある都市づくりを目的に設立。国内外からの観光客やコンベンションの誘致、物産品の販路拡張に関する事業、国際交流活動の推進を図る事業等を実施している。

(4) 公益財団法人仙台ひと・まち交流財団

地域のコミュニティの推進及び振興を図ることを目的に設立。文化芸術の分野では、区文化センター等の管理運営を担い、地域における市民への文化活動の場の提供やその支援にかかる事業等を実施している。

4 仙台市の文化関連施設

名称	開館年月		備考
主要ホール等施設（（公財）全国公立文化施設協会登録施設）			
仙台市民会館 （トークネットホール仙台）	S48	1973. 11	大ホール 1,265 席 小ホール 500 席
仙台市戦災復興記念館	S56	1981. 4	記念ホール 270 席
仙台市男女共同参画推進センター （エル・パーク仙台）	S62	1987. 3	ギャラリーホール 248 名 スタジオホール 190 名
仙台市泉文化創造センター （仙台銀行ホールイズミティ 21）	S62	1987. 11	大ホール 1,456 席 小ホール 408 席
仙台市青年文化センター （日立システムズホール仙台）	H 2	1990. 3	コンサートホール 802 席 シアターホール 584 席
仙台国際センター	H 3	1991. 9	大ホール 1,000 席
仙台サンプラザホール（※1）	H 3	1991. 5	サンプラザホール 2,710 席 （最大）
仙台市広瀬文化センター	H 3	1991. 7	ホール 605 席
仙台市シルバーセンター	H 4	1992. 1	交流ホール 304 席
仙台市若林区文化センター	H 5	1993. 9	ホール 700 席
仙台市福祉プラザ	H 6	1994. 9	ふれあいホール 302 席 プラザホール 150 席
仙台市太白区文化センター	H11	1999. 9	ホール 674 席（最大）
せんだい演劇工房 10-BOX	H14	2002. 6	
10-BOX 別館 能-BOX	H23	2011. 8	
仙台市宮城野区文化センター	H24	2012. 10	コンサートホール 384 席 シアターホール 198 席
その他の施設（本計画に関わりのあるミュージアム等）			
仙台市天文台	S30	1955. 2	新館 H20 開館
仙台市博物館	S36	1961. 10	ホール 200 席 新館 S61 開館
仙台市科学館 （スリーエム仙台市科学館）	S43	1968. 5	新館 H 2 開館
仙台市歴史民俗資料館	S54	1979. 11	
仙台市富沢遺跡保存館 （地底の森ミュージアム）	H 8	1996. 11	
仙台文学館	H11	1999. 11	
せんだいメディアテーク（※2）	H13	2001. 1	オープンスクエア 300 席（最大） スタジオシアター180 席 ギャラリー8 室
仙台城見聞館	H18	2006. 3	
仙台市縄文の森広場	H18	2006. 7	
せんだい 3.11 メモリアル交流館	H28	2016. 2	
史跡陸奥国分寺・尼寺跡ガイダンス施設	H29	2017. 7	

※1 民間企業が市から土地建物を借り受けて運営

※2 メディアテークも公文協登録施設

5 仙台市の文化財の状況

●指定文化財

令和4年4月1日現在

種類	区分	計	内訳			
			国宝	国指定	県指定	市指定
有形文化財	建造物	33	1	4	10	18
	絵画	16	—	—	5	11
	彫刻	20	—	1	7	12
	工芸品	26	—	5	8	13
	書籍・典籍	23	2	1	19	1
	古文書	9	—	2	—	7
	考古資料	11	—	2	3	6
	歴史資料	33	1	3	11	18
	小計	171	4	18	63	86
無形文化財	工芸技術	1	—	1	—	—
	小計	1	—	1	—	—
民俗文化財	有形	9	—	—	—	9
	無形	18	—	1	12	5
	小計	27	—	1	12	14
記念物	史跡	16	—	7	—	9
	名勝	3	—	3	—	—
	天然記念物	16	—	6	3	7
	小計	35	—	16	3	16
総数		234	4	36	78	116

●登録文化財

令和4年4月1日現在

種類	区分	計	内訳	
			国登録	市登録
有形文化財	建造物	83	59	24
	彫刻	16	—	16
	歴史資料	3	3	—
	小計	102	62	40
民俗文化財	無形	5	—	5
	小計	5	—	5
総数		107	62	45